# コンビニ

みかんだいふく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
コンビニ

【Ｎコード】
Ｎ０３９２Ｕ

【作者名】
みかんだいふく

【あらすじ】
高校時代の憧れの人、井上さんが深夜のコンビニにいるらしい。
ほんの些細な興味だった。期待なんて、していなかった。

「なあ、あのコンビニにいるんだってさ」

別に、幽霊が出るとか、そんな馬鹿な話じゃないんだ。

「井上さんが、さ。お前、好きだっただろ？」

高校時代は、確かにそうだった。だが今でも彼女のことを好きなわけじゃない。それはただ、ほんの些細な興味だったんだ。

「深夜にしかいないんだとさ。なんだか、幽霊みたいじゃね？」

眉目秀麗、才色兼備だった彼女が深夜のコンビニに……バイトか何かだろうか？

会ってみたい、という気持ちがあらわれたのは、不自然なことではないだろう。それ以上の感情はなかったはずだ。

「いらっしゃいませー」

少し抑えたような店員の声。

店内にいる客の中に、彼女の姿はないようだった。そもそも、成長した彼女を、僕に見つけられるのだろうか？

何も買わずに出ていくのも怪しいだろう。必要もないが、単三電池とペットボトルのコーラをカゴに入れ、レジの前に立った。

正面でレジを操作している……というより、レジの一部と化している女性に、彼女の面影は見えない……だが、清楚な印象を受ける長い黒髪に大人しめの化粧は、当時の彼女の姿を彷彿とさせた。

「ありがとうございましたー」

彼女だったのだろうか……それならば、僕の目的は達成できたものとなる。

胸の中に小さな満足感を隠し、ドアを開ける。一歩、外へと踏み出した、その時だった。

「イノウエさん、コーラでいっすか？」

品のない声が、ドアの隣……駐輪場から聞こえた。

「ああ、さっさと買ってこいよ」

「っかりやしたー」

ハスキーのような低い声……目をやると、髪を金に染めた、所謂『関わってはいけない女』が地に座り込んでいた。

ダボダボのスウェット上下に、眉のない顔。普段の僕なら、関わらずして……目もやらずに通り過ぎていただろう。

だが、今日はそうでなかった。

金髪の女が、どう見てもあの井上さんそのものだったのだ。

髪の色や、化粧の濃さ、その声さえ違えど、当時の面影をしっかりと残している。

期待していたのかもしれない。心のどこかで。

あら、どこかで会ったことないかしら？　私、井上っていうんだけれど……。

当時と変わらない、美しい姿。美しい声で彼女が言う。

また来てね。なんて、上品な笑みを浮かべて……馬鹿げてる。どんな夢を見ているんだろう。

僕は、レジで受け取った袋の中にあるペットボトルに目をやった。

黒というのか、茶色というのか……この液体が、共通点なのだ。

初めて見つけた、僕と彼女の共通点……。

僕は、まだ口をつけていないそれをゴミ箱へと投げ入れ、コンビニを去った。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0392u/

コンビニ

2011年6月13日13時48分発行